板橋区での環境教育の取り組み

区の木ケヤキ

区の花ニリンソウ

板橋区役所の緑のカーテン

区の鳥ハクセキレイ

板橋区の概要

面積	32.17 k㎡（23区中9番目）
人口	534,957人(23区中7番目）
世帯数	275,320　世帯

高度経済成長期の公害行政

昭和38年頃の志村の工業地帯

都市河川の汚濁

昭和40年に23区に先駆けて公害係を設置し工場指導にあたった

環境行政への転換

- 固定発生源からの公害問題が改善

↓

今後の区の環境行政の方向を検討

- 平成３年「快適環境ガイドライン」策定

環境家計簿運動等環境学習事業開始

- 平成５年「快適環境推進協議会」が環境学習拠点（ｴｺﾎﾟﾘｽｾﾝﾀｰ）の整備を提案

エコポリスセンター
平成7年（1995年）開設

所在地：板橋区前野町４－６－１
敷地面積：1，846．6㎡
延床面積：3，712．43㎡
構造規模：RC造地下2階地上3階建て

エコポリスセンターの事業

環境教育推進基盤整備事業

プログラム部会開催
（環境教育プログラム作成）

環境教育プログラムの実証
（学校での試行）

エコポリスセンターの事業

環境学習事業

地域エコロジー講座
（PTA事業に出前）

板橋エコロジー講座
（高尾山で自然観察）

夏休みエコスクール
（おもしろ環境教室）

環境ミニ教室
（リサイクル工作）

総合学習出前講座
（ヤゴ救出作戦）

環境観察会
（浮間公園トンボ観察）

エコポリスセンターの事業

指導者養成事業

保育士研修会
（東電共催の自然観察会）

保育士研修会
（地球温暖化防止）

環境リーダー養成講座
（森林編）

環境マスター講座
（学校出前授業に役立講座）

夏休教員環境研修
（ﾌｰﾄﾞﾏｲﾚｰｼﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）

小学校生活部会教員研修
（自然物利用の工作等）

エコポリスセンターの事業

こどもエコクラブ事業

こどもエコクラブ
（武蔵嵐山里山体験）

エコクラブ交流会

グローブクラブ定期活動

土浦交流会
（霞ヶ浦水質測定、里山観察）

エコポリスセンターの事業

地域連携事業

環境なんでも見本市
（ブース展示）

環境なんでも見本市
（出展者交流会）

環境会議定例会

環境会議足立区視察

環境まちづくり
（まちの環境発表会）

自主企画講座支援
（林の成り立ちと遷移）

家政大学との事業協定
（環境教育総合支援制度
締結式）

家政大学への出前講座
（エコロジー論）

エコポリスセンターの事業

環境啓発事業

エコチェックシートの実施
（区民まつり）

エコチャレンジ大会の実施

緑のカーテン全国フォーラム

緑のカーテン講習会の開催

エコポリスセンターの事業

環境イベント事業

環境月間特別企画展
（講演会・パネル展示）

夏休子供リサイクル工作教室
（地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ講師・家政大学生講師）

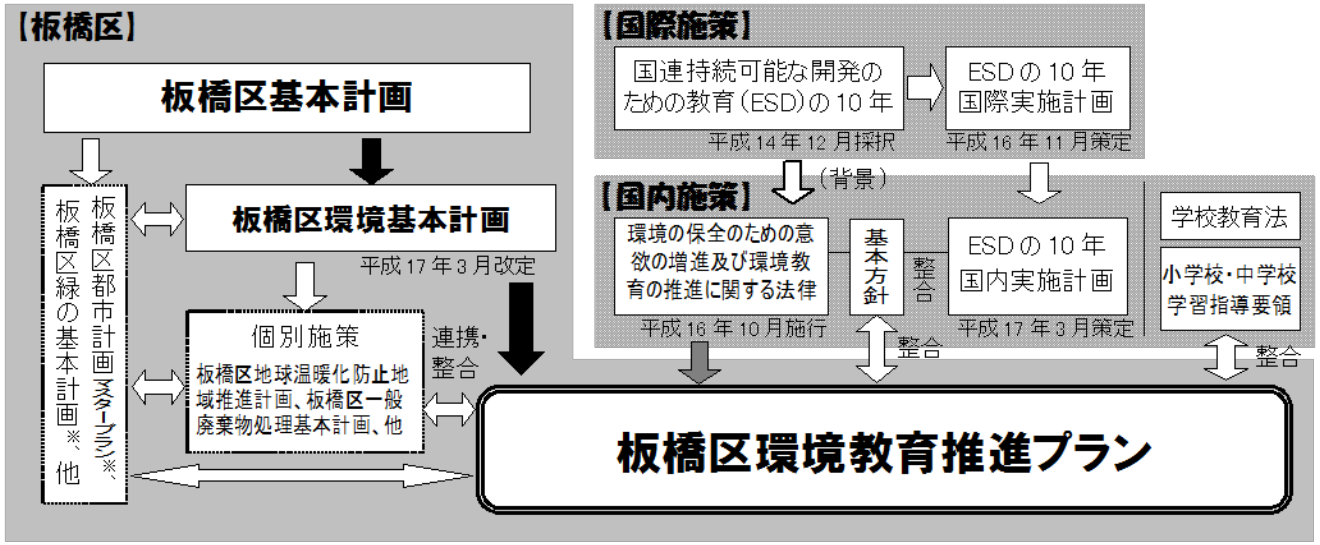
3R月間特別企画展
（講演会）

地球温暖化防止月間特別企画展
（講演会・パネル展示）

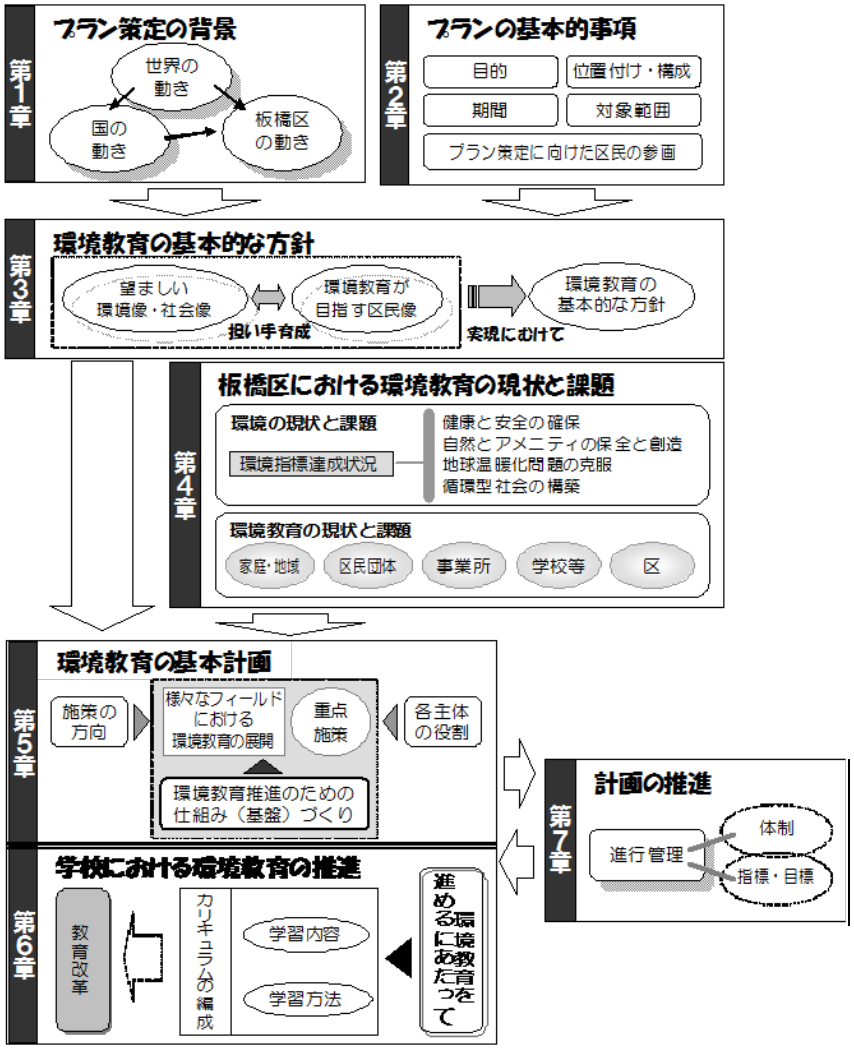
エコライフウイークイベント
（ワークショップ・パネル展示）

環境教育推進プランの策定（平成19年2月）

・このプランは、「環境教育推進法」第8条の規定に基づく、板橋区の「方針、計画等」及び「板橋区環境基本計画」の重点取り組みである「環境教育の推進」を計画的・効果的に行うための実施計画として策定
・ 板橋区と板橋区教育委員会が連携して策定
・基本計画部分は平成27年度までの計画

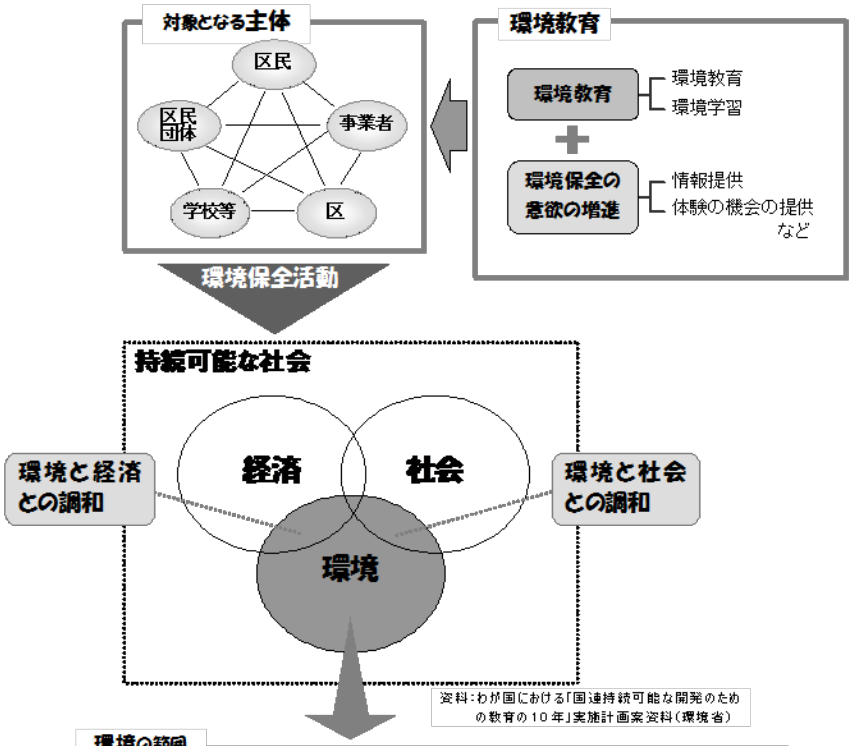


環境教育推進プランの構成

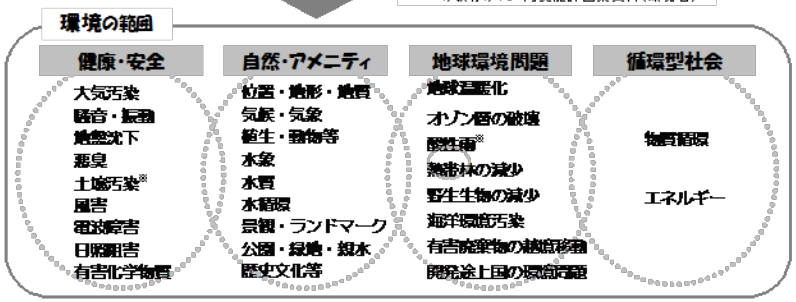


環境教育推進プラン

（環境教育の対象範囲）



資料：わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画案資料（環境省）



板橋区環境基本計画のテーマと対象範囲

環境教育の基本的な方針

板橋区の環境教育が目指す区民像

人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに参画できる板橋区民

環境教育の基本計画

１　様々なフィールドにおける環境教育の展開

区民、区民団体、事業者、学校等、区のそれぞれが自主的に、また連携して、家庭、地域、職場、学校等、区の施設等の場（フィールド）において、各主体の特色を生かした環境教育を継続的に実施する

２　環境教育推進のための仕組み（基盤）づくり

区は、地域の自然環境や区の施設等の特色を生かした環境教育を推進するとともに、各主体の自主的な環境教育の取組を着実に進めるため、情報の整備、機会の提供、人材の育成、拠点の整備など、推進のための仕組みや基盤の整備を実施する

３　重点施策

環境教育の範囲やその推進に向けた取組は非常に幅広く、網羅的な施策の実施では、地球温暖化防止など喫緊の課題への十分な対応が難しいことから、重点施策を定め効率的な環境教育の展開を図る

重点施策

①全区民参加型事業 ～広く一般の人への環境教育～
②小・中学校の連携による体験的・実践的な環境教育の推進
③（仮称）板橋区環境教育推進協議会の創設
④プログラムバンクの創設（環境教育に関する人材・プログラムの一体提供）
⑤人材の育成

学校における環境教育の推進

小学校から中学校までを見通した系統的なカリキュラム（小・中一貫カリキュラム）の編成

計画の推進

環境教育が効果的に実施されているかどうかをはかるものさしとして、成果指標を設定し、平成27年度までの目標を立てて、達成状況を管理していく

小中一貫カリキュラムで系統的な環境教育

板橋区環境教育カリキュラム　平成20年2月策定

- カリキュラムのコンセプト

多様性

つながり
かかわり

地球規模で考え
足元から行動する

（１）育てたい子どもの姿

- 人間と環境との関わりについての**正しい認識**に立ち、
- 自らの**責任ある行動**をもって、
- **持続可能な社会づくりに参画できる**子ども

（２）三期で系統的な学び

〈感受期〉

- 自然に触れ、自然の事物・現象から感受する活動の機会を多く設定
- 自然を体験する

↓

- 守るべき自然がどのようなものであるかとらえさせる

環境から学ぶ

〈認識・問題把握期〉

- 環境に関わる事象に直面させる

↓

- 因果関係や相互関係の把握、課題解決力を育成する

環境について学ぶ

〈評価・意思決定期〉

- 環境問題を総合的に思考・判断したり、選択・意思決定が行えるような学習活動を設定

↓

- 環境保全や環境の改善に主体的に働きかける能力や態度を育成する

環境のために学ぶ

（３）板橋区環境教育テキスト「未来へ」

もくじ

『エコポリス板橋』環境都市宣言

第1部　さまざまな自然や文化

1. 日本にある世界遺産を調べよう！　2
2. 区内で未来に残したいものは？　3
3. さまざまな動物・こん虫を調べよう！　4
4. 区内ではどんな動物・こん虫が見られるだろう？　5
5. さまざまな森林のはたらきを知ろう！　6
6. 身のまわりで植物はどのように利用されている？　7
7. さまざまな生物のつながりを調べよう！　8
8. 多くの生物がすめる場所をつくるには？　9

第2部　自然とわたしたちのくらしのつながり

1. 水と産業や生活とのつながりを考えよう　10
2. 水はホントにたくさんあるの？　11
3. 水の大切な使い方を調べよう！　12
4. 水がよごれるのはどうしてだろう？　13
5. 1年中、野さいやくだものがとれるわけを調べよう！　14
6. 板橋区でも野さいはつくられている？　15
7. 田んぼのはたらきを調べよう！　16
8. 米作りとわたしたちの生活はどんな関係があるのだろう？　17
9. 生活の中で使われている石油を調べよう！　18
10. 日本は資源が豊富にあるの？　19
11. “もったいない”ごみを調べよう！　20
12. ごみはどこへ行くのだろう？　21
13. 空気をよごす原因を調べよう？　22
14. 空気をよごさない工夫にはどんなものがあるだろう？　23

生き物は大きなつながりの中に…南極から学ぶ　24

環境教育ハンドブックの作成

・作成経緯

環境教育推進プランに基づき、小・中学校における授業を主眼に、区民・区民団体・事業者等の方々が開催する環境講座など、環境教育を実践するにあたり環境教育に対する知識や経験の少ない指導者の方でもすぐに利用できるよう具体的で体験的な活用しやすいプログラムを提供する、環境教育ハンドブックを作成することとなった

・作成組織

環境教育の指導を行った実績のある区民（公募）、と小中学校の先生とで「環境教育プログラム部会」を立ち上げ作成

・環境教育ハンドブックの構成

（1）板橋区環境教育プログラム

主に小・中学校の先生等の指導者がすぐに授業や講座で活用できるよう、様々な場において実践・紹介されている環境教育プログラムを参考としながら、地域特性等を踏まえて開発した板橋区環境教育プログラムを詳細に掲載

（2）環境教育プログラム事例集

すでに様々な場において実践・紹介されているプログラムやすでに区内で取り組みが進んでいるプログラムを選定し、その概要を掲載

（3）プログラムバンク

板橋区環境教育プログラム、環境教育プログラム事例集、区内で利用できる施設、活動支援団体等の情報をインターネットで公開するプログラムバンクについて説明

（4）利用できる施設、活動支援団体等

区内で利用できる施設やフィールド、講師派遣等の支援が可能な団体等環境教育支援団体の情報を掲載

環境教育プログラム

特長

・発達段階（感受期：小学３～４年生、認識・問題把握期：小学５年～中学１年生、評価・意思決定期：中学２～３年生）に応じて開発した体験的・実践的プログラムを掲載

・主に学校の先生が授業で活用しやすいように、プログラムの進め方や時間配分、使用するものなど、学習を行う際に必要となる情報から参考となるデータや学習シートまで、できるだけ多くの情報を掲載

・必要に応じて、それぞれのフィールドや発達段階、知識の習熟度などによってプログラムを加除修正し、活用しやすいように組み替えて使用してすることが可能

・各プログラムは基本的に１回の授業でできるようなプログラムを掲載しているので、環境教育に関する一連の学習内容の一部として活用 できる

環境教育プログラムの構成

■プログラムの概要

ねらい	プログラムを実施する目的について示します。		
目　標	プログラムを実施することによる、児童・生徒の到達目標を示します。		
分　野	プログラムの分野を示します。		
対　象	プログラムを活用できる学年の範囲を示します。		
主な教科	プログラムに関連する教科を示します。		
時　間	プログラムを実施するために必要な時間の目安を示します。	実施場所	プログラムの実施場所を示します。
使用するもの	プログラムを実施する際に使用するものを示します。		
全体の流れ	プログラムの全体の流れを示します。		
関連プログラム・事例	関連するプログラムや事例を示します。 No.○：板橋区環境教育プログラム、事例○：環境教育プログラム事例集		
参考情報	プログラムを作成するにあたり、参考とした資料や実施する上で参考となる情報等を示します。		

■進め方

プログラムの所要時間と、それぞれの時間で行う内容及び指導上の留意点を示します。

■使用するもの

プログラムの実施にあたり、使用するものの名称および数量を示します。

■参考となるデータ

プログラムのテーマに関連のあるデータを紹介しています。

■授業の様子

実際に授業を行った実績のあるものについて、授業の様子を写した写真を掲載しています。

■実施にあたって留意する点

プログラムを実施する際に、学校の先生等指導者が留意すべき点について示します。

■学習シート

プログラムを実施する際に、児童・生徒に配布する学習シートを示します。

プログラムバンク

プログラムバンクは、環境教育ハンドブックの内容や学習シート･環境教育に必要な資料等の情報をインターネットで公開するもので環境教育に関する人材と環境学習プログラムの情報を集約し、一体的に提供するものである。ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾊﾞﾝｸは、エコポリスセンターのホームページに構築している。

環境教育ハンドブック活用状況（平成20年度）

活用小学校	54校中	40校	74%
活用中学校	23校中	11校	48%
活用小中学校　合計	77校中	51校	66%

環境教育推進プランの成果指標実績

成果指標		平成19年度	平成20年度	目標 （平成27年度）	達成率
①	エコポリスセンターホームページのアクセス件数	126,209件	84,531件	260,000件	32.5%
②	プログラムバンクの利用学校数 （ハンドブック利用学校数）	H20.3創設	25校 （49校）	全校（77校）	32.5% （63.6%）
③	プログラムバンクの登録人数	H20.3創設	40人	300人	13.3%
④	プログラムバンクの登録プログラム数	37件	78件	300件	26.0%
⑤	いたばしエコ・ショップの店舗数	95店舗	107店舗	150店舗	71.3%
⑥	環境保全キャンペーン参加者数	22,811人	21,677人	30,000人	72.3%
⑦	エコチェックシートの得点	51.9点	52.2点	満点（70点）	74.6%
⑧	小・中学校における環境学習の件数	705件	807件	2,000件	35.3%
⑨	環境講座等参加者数 （内エコポリスセンター環境講座等参加者数）	23,920人 （11,703人）	221,638人 （9,869人）	30,000人 （10,000人）	72.1% （98.7%）
⑩	環境イベント等参加者数 （内エコポリスセンター環境イベント等参加者数）	57,980人 （34,181人）	61,731人 （34,832人）	100,000人 （70,000人）	61.7% （49.8%）
⑪	エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	656人	502人	1,000人	50.2%
⑫	エコポリスセンター登録環境団体数	13団体	14団体	30団体	46.7%
⑬	こどもエコクラブ登録団体数	8団体	9団体	30団体	30.0%
⑭	集団回収登録団体数	832団体	850団体	880団体	96.6%
⑮	環境学習講師派遣実施件数・派遣人数	33校500人（延101校）	28校387人（延89校）	全校（77校）500人	36.4% 77.4%